

3年道德通信

第29号

第29回『村長の決断』

サンゴ礁に囲まれたカラウ島の大自然は村人たちの誇りですが、これといった産業がないので、多くの若者たちは職を求めて島を出ていきます。その島に、保養地として開発する構想がもたらされ、キラ村長は、開発を進めるか否かで思い悩みます。

過疎化を解決するために開発を進めるか否かに悩む

キラ村長を通して、郷土や自然を大切にするとはどういうことか、また、自分の行動をどのように決断するかについて考えました。



みんなの意見

村長のキラはどのような決断をするのが良いでしょう。

- 【開発する】 ・人が増えてお金が入ってきたら、動物を保護して自然を使った施設が作れる。
・人が少ないと活気がなくなるから、人を増やせる観光地を作ったら良い。
- 【開発しない】 ・開発はどこでもできる。その島にしかない美しさを守り抜けば良いと思う。
・元々すんでいる人たちが住みにくくなる。
・壊したら元に戻せないから

「開発したらどうなるか、しなかったらどうなるか」班で話し合った結果は？

- 【開発する】 ・雇用が増える。 ・環境が悪くなる。 ・村が発展する。
・島がよごれる。 ・人が増える。 ・貴重な自然が壊される。
- 【開発しない】 ・老人ばかりの島になる。 ・人がいなくなる。 ・自然は残すことができる。
・家族と離れる ・村が消えてしまう。



村長キラはどのような行動を取る決断をするのが良いと思いますか？

- ・島のみんなと話をすると良いと思う。
- ・みんなの意見を聞くのは大事だけど、最後は村長のキラが責任を持って決めないといけない。
- ・活気のある町にしたら、自分の住む町にもっともっと自信が持てると思う。すべての自然をなくさないように自然を残しながら町を開発していくべきだと思う。
- ・開発して人口が増えるのはいいけれど、老人が過ごせなかったり、自然が壊れてしまって今までと変わってしまうのはいやだと思うし、開発しなくても良いと思った。

二つの行為が対立する場面で自分がどのような行動を取るべきか、また郷土や自然を大切に思うことについて考えを深めよう。